



『通布字典』

天保4年(1833)

一般には『ドーフ・ハルマ』、または『長崎ハルマ』と呼ばれている。当時オランダ商館長であったドーフ(Hendrik Doeff)は文化9年(1812)頃、長崎のオランダ通詞に協力を求め、ハルマ(François Halma)の1729年刊の『蘭仏辞書』第2版をもとに蘭日辞書作成の作業に着手、文化13年(1816)には一部を完成、全部を完成したのは彼の帰国(1817)後の天保4年(1833)である。草稿は長崎奉行に献上、奉行は幕府に差し出し、幕府は多くの通詞に訂正を加えさせ、書写を命じた。これが本書の原本である。活字本はなく、適塾の塾生たちは争って書写を行っている。当辞書は、後に桂川甫周によって改訂され、『和蘭字彙』として刊行された。

本学所蔵のものは、10巻本のうち第8巻が欠本になっている。